

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	芸術・美術Ⅲ	単位数	2	単位	履修学年	3年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題作品の制作を通して、ものを見るための感性を伸ばし、深く物事を観察する力や想像力を身につける。</li> <li>・表現力をより一層伸ばすと共に、美術についての理解を深め、生涯にわたり美術を愛好する心と美術文化を尊重する態度を育てる。</li> </ul>					
使用教材	<p>【教科書】 美術 3 (光村図書)</p> <p>【副教材】 クロッキーブック、自主教材</p>					
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	課題作品の制作において、道具や材料の特性を工夫しながら、自分の表現を実現している。作品を鑑賞する態度と制作技法を理解し自分の表現を検討ができる。	課題作品のテーマやその表現方法を芸術的な感性により、独創性のある世界を構築している。	制作課題のテーマに関心を持ち、内容を的確に把握している。芸術的な創作活動に積極的に取り組んでいる			
評価方法	<p>目標を踏まえ、美術Ⅲに対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「発想力・創意工夫」「表現技術」「知識・理解」は、提出作品を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況（完成度、技術、対象物の理解度、発想力）等をもとに総合的に判断し評価します。</p>					
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い		
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロッキー</li> <li>・鉛筆・木炭デッサン（静物、石膏像）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物クロッキーを行い、基本的なデッサン力を身に付けます。</li> <li>・与えられたモチーフをデッサンの技法を理解し、形態、陰影、空間、質感工等を、工夫しながら表現します。</li> </ul>		
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着彩（絵画的表現）</li> <li>・デザイン作品の制作</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられたモチーフを絵の具の特性を知り、工夫しながら表現します。また、写實的にだけでなく自分なりの個性を表現します。</li> <li>・与えられた課題を自らイメージや、材料の使い方の工夫により、表現するだけでなく、ニーズを考慮に入れながら、アイディアを出す思考を養います。</li> </ul>		
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体構成作品の制作</li> <li>・作品鑑賞</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らイメージしたものを、与えられた材料を基に立体的な造形作品に仕上げます。イメージする力を身につけ、材料の使い方の工夫により、立体的な造形ができるようにします。</li> <li>・鑑賞力を身につけ、感性を高め、美術文化について理解を深め、個性豊かな能力を高めます。</li> </ul>		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品の完成度を追及するには、授業中の集中力が必要です。</li> <li>・制作に必要な道具や材料を事前に準備する計画性が必要です。</li> <li>・課題作品の提出期限は必ず守ってください。</li> </ul>					

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（機械科）・生産技術	単位数	2 単位	履修学年	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産に関わる計測、生産管理、品質管理について理解する。</li> <li>・電気の基礎、制御の種類や機構の基礎を理解する。</li> <li>・生産システムに関する電子回路、情報機器と電子部品について理解する。</li> </ul>				
使用教材	【教科書】生産技術（実教出版）				
評価の観点 ・評価規準	「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に取り組む態度」		
	<p>生産システムに関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。</p>	<p>生産システムに関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。</p>	<p>生産システムに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現できる。</p>		
評価方法	<p>目標を踏まえ、生産技術に対する「主体的に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。</p>				
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産管理 生産設計 品質管理</li> <li>・電気基礎学習 オームの法則 キルヒホッフの法則</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産に関わる計測、生産計画、品質管理などの生産にかかわる事柄を学習します。</li> <li>・電気の基礎法則について学習します。</li> </ul>	
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気基礎学習 直流回路 交流回路</li> <li>・情報機器と電子部品 パーソナルコンピューター 電子部品</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気の基礎である直流・交流について学習し、その法則に従った電気機器を理解します。</li> <li>・電子部品について、それぞれの特性、特徴を学習し、それを活かした機器について学習します。</li> </ul>	
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御技術 シーケンス回路</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御の基礎であるシーケンス制御について学習します。1・2年生の実習内容を思い出しながら学習すると、より効果的です。また、平行して3年生の実習で実技をします。</li> </ul>	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産システム技術は、電気についての学習だけでなく、機械制御や生産、品質の学習を含んだ機械科の基礎・基本科目のひとつです。関心・意欲を持って取り組んでください。</li> <li>・電気の基礎においては、いろいろな場面で計算力や読解力が必要となります。授業では問題集を用い、それらの基礎についても学習します。</li> </ul>				

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（電子技術）	単位数	2	単位	履修学年	3	年
目 標	<p>・電子回路に関する基礎的な知識をもとに、実際に活用する能力と技術及び態度を育て、回路素子の機能や特性、電子回路の応用技術について理解を深める。</p>						
使用教材	【教科書】電子技術 新訂版（実教出版）						
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度				
	<p>・電子技術の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。</p>	<p>・電子技術に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。 ・実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。</p>	<p>・電子技術に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。</p>				
評価方法	到達目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」は、日々の授業に取り組む姿勢を中心に評価します。「知識・技能」「思考・判断・表現」は、課題、定期テストおよびノート提出を中心に評価します。これらを総合的に判断し評価します。						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	<p>電子回路素子</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体、ダイオード、トランジスタ</li> <li>・FET とその他の半導体素子</li> <li>・集積回路</li> <li>・応用計測</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信機器やコンピュータなどに使われる電子回路素子の電流や電圧の制限、整流、増幅、スイッチングなどの電子技術の働きを学習する。</li> <li>・電子回路素子の構造、電気的性質および用途などについて学ぶ。</li> </ul>			
2 学期	<p>増幅回路の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トランジスタ増幅回路の基礎</li> <li>・トランジスタのバイアス回路</li> <li>・トランジスタによる小信号増幅回路</li> <li>・トランジスタによる小信号増幅回路の設計</li> <li>・FET による小信号増幅回路</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・増幅という用語の定義、トランジスタによる増幅の原理、基本増幅回路、<math>h</math>パラメータと小信号等価回路などについて理解させる。</li> <li>・バイアス回路の安定度・種類・特徴などについて理解させる。</li> <li>・電圧増幅度と周波数特性などについて理解させる。</li> </ul>			
3 学期	<p>発振回路</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発振回路の基礎</li> <li>・LC 発振回路、CR 発振回路</li> <li>・水晶発振回路</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>R_E</math> による負帰還・エミッタホロワ・多段増幅回路の負帰還などについて理解させる。</li> <li>・発振回路の動作や回路の種類、その特徴および回路例について学ぶ。</li> </ul>			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習をしっかりと、日々の授業を大切にしてください。</li> <li>・授業と小テストで、きちんと理解を図り、定期テストに臨んでください。</li> </ul>						

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（建築デザイン科）・建築計画	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	・建築計画に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力と態度を身につける。				
使用教材	【教科書】建築計画（実教出版） 【副教材】自主教材				
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	建築計画に関する知識を十分理解できたか。建築計画の内容を他の教科に応用できる力がついたか。	建築計画に関する課題に対して、幅広く柔軟に考え、的確な判断、回答をすることができるか。建築計画で学習した内容を略図や文章で的確に表現できるか。		建築計画に関心を示し、その考え方や内容を的確に把握して取り組んでいるか。	
評価方法	目標を踏まえ、建築計画に対する「関心・意欲・態度」と「思考・判断」については日々の授業を中心に評価を行い、「技能・表現」と「知識・理解」は定期考査や提出物（ノート、プリント）を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等を総合的に判断し評価します。				
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い	
1 学期	1. 建築と環境 ・建築と環境の概要                      ・日照と日射 ・屋外換気用と室内環境                ・採光と照明 ・換気と通風                                ・色彩 ・伝熱と結露                                ・音響			・建築計画の概念、室内空間、日常生活行動等から建築計画の内容や進め方について学習します。 ・建築計画（デザイン）において、形態、色彩、テクスチャー、空間などの造形要素が、人間の心理にどのように働きかけているかを学習します。	
2 学期	2. 住宅の計画 ・住宅の意義 ・住宅計画の進め方 ・全体計画 ・各部の計画 3. 各種建築物の計画 ・集合住宅の計画 ・事務所の計画 ・小学校の計画	4. 都市と地域の計画 ・都市と都市計画 ・都市計画制度と都市計画法 ・建築と地域の計画 ・地域の計画とまちづくり		・建築の原点である住宅について、建築計画に係わる専門知識について学習します。 ・現代の住宅の多様性、生活行為、またバリアフリーなどの視点から、暮らしやすい生活空間の計画について学びます。	
3 学期	5. 建築設備の計画 ・建築設備の概要 ・給排水衛生設備、空気調和換気設備 ・電気設備 ・防災設備、搬送の設備			・建築物の内部における人間の生活について、安全面、快適さ、利便性、保守性など様々な観点から考え、それらを支える設備に関する知識を学習する。	
学習上の留意点	・教科書や配布したプリントあるいはノートを、忘れずに準備してください。 ・普段の授業を大切にしてください。また、提出物は期日までに必ず提出してください。				

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業（生物資源科）・畜産	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畜産振興と生産経営に必要な知識と技術を習得する。</li> <li>・ 動物の特性や成育環境を理解する。</li> <li>・ 伊賀地域に応じた地産地消の意義を学ぶ。</li> </ul>				
使用教材	【教科書】畜産（実教出版）				
評価の観点・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	動物の種別による特徴理解があり、衛生的な配慮ができる。流通手段や経費、経営の改善について理解している。	現代畜産の特徴とあゆみについて知り、世界と向き合える思考力に期待する。伊賀地域の気候特徴と飼育管理への留意が科学的にすすめられている。あたたかく思いやりのある態度や姿勢が表現されている。飼育・肥育計画、成育段階の特性に応じた飼育・肥育管理、診断方法を身につけ、その成果を適切に表現できる。	動物の役割や生理・生態に関心を持ち、食生活の変化を踏まえた畜産業の役割を考えている。		
評価方法	目標を踏まえ、畜産に対する「主体的に学習に取り組む態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断・表現」「知識・技能」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、小テスト等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。				
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			
1 学期	第1章 日本の畜産の特徴と役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の畜産の特徴</li> <li>・ 日本における畜産物の需給の動向</li> <li>・ 畜産の役割と課題</li> <li>・ 科学の発展と畜産への活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人と動物のあゆみについて学び、限りある資源のなかから、国際的な視野にたつての需要と供給のバランスを鑑みる。</li> </ul>			
	第2章 動物の生理・生態と飼育環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動物の生理・生態</li> <li>・ 飼育環境の調節</li> <li>・ 家畜排せつ物の処理と利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生理・生態の把握と現状と未来を探る。</li> <li>・ 生産が及ぼす影響と有効活用について習得する。</li> <li>・ 地域ブランドの在り方と未来を創造する。</li> </ul>			
2 学期	第3章 家畜と飼料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家畜の栄養と栄養素</li> <li>・ 飼料の特性と給与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家畜の栄養の概念を通して、食料生産における畜産と飼料の位置づけと意義について習得する。</li> <li>・ 飼料の成分からその栄養的意義について理解する。</li> <li>・ 栄養素とその機能、代謝についての知識を習得する。</li> </ul>			
2 学期 ～ 3 学期	第4章 家畜の飼育 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養鶏</li> <li>・ 養豚</li> <li>・ 酪農</li> <li>・ 肉牛の飼育</li> <li>・ そのほかの家畜</li> <li>・ 野生生物への対応</li> </ul> 第5章 畜産と経営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畜産経営の基礎</li> <li>・ 畜産経営の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの「品種の特性」「施設設備の方式と形態」「飼育・肥育技術」「衛生・健康管理」「付加価値を高める技術」「飼育・肥育計画と経営」について習熟する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">※伊賀ブランド「伊賀山麓豚」「伊賀牛」については、最重要学習領域とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畜産振興に関わる現状や課題を整理して、理解に努める。そのうえで、有効な情報活用をできる素地を磨く。</li> </ul>			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的には教科書に沿って授業を進めますが、地域の実態や本科の実践学習に適した題材を用いることがあります。</li> <li>・ 食生活と人の営みに関係する授業です。消費者と生産者相互の安全安心を真摯に考えることのできる人材育成を目指して授業を行います。わからないことは積極的に質疑するよう心がけてください。</li> </ul>				

# 年間授業計画（シラバス）

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	農業・食品化学		単位数 2 単位	履修年次 3年 フードシステム科
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の分析と検査に必要な基本的な知識と技術を身につける。</li> <li>・食品の成分と栄養を理解し、食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を身につける。</li> </ul>			
使用教材	【副教材】食品化学（実教出版） 自作教材（プリントなど）			
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	食品の構成成分の特徴を理解するとともに、食品製造に必要な食品化学の知識が身につけている。食品の構成成分の分析に関する、基本的・基礎的な技術を身につけている。	食品の構成成分の特徴とその役割を把握し、食品化学における各種成分の機能性を実験などを通して正しく判断することができ、考察をレポートで表現することができる。	食品の構成成分に興味・関心を持ち、各種の食品製造及び農業の各分野で応用できる意欲と態度を身につけている。	
評価方法	目標を踏まえ、食品化学に対する「知識・技能」と「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から行います。評価は、日々の学習状況、提出物（小テスト、ノート、プリント）、定期考査などにより総合的に評価します。また、食品化学実験について、自己評価・相互評価により、総合的に評価します。			
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い	
1 学期	食品の成分分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品分析の基礎</li> <li>・食品成分の定量分析</li> <li>・食品成分の物理・化学分析</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎となる重量分析を学習する。</li> <li>・食品成分の定量分析を学習する。</li> <li>・食品中の機器分析を学習する。</li> </ul>	
2 学期	食品衛生検査と食品添加物 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生検査の意義</li> <li>・食品添加物の種類と性質</li> <li>・食品添加物の検査</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生検査の必要性を学習する。</li> <li>・食品添加物の種類と性質を学習する。</li> <li>・食品添加物の検査を学習する。</li> </ul>	
学期	食品衛生検査と食品添加物 <ul style="list-style-type: none"> <li>・残留農薬とポストハーベスト農薬</li> <li>・異物有害性金属の検査</li> <li>・器具・容器包装の検査</li> <li>・細菌の検査</li> <li>・水質検査</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農薬について学習する。</li> <li>・異物有害性金属の検査を学習する。</li> <li>・器具・容器包装の検査を学習する。</li> <li>・細菌の検査を学習する。</li> <li>・水質検査を学習する。</li> </ul>	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品成分、栄養素に関する基礎的な科目である。</li> <li>・実習で実際に食品の加工を行うので基礎知識が身についた上で実践に役立てる。</li> <li>・課題やレポートの提出は期限に遅れないように注意する。</li> </ul>			

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

<b>教科・科目</b>	商業(経営科)・ソフトウェア活用	<b>単位数</b>	3	<b>単位</b>		<b>履修年次</b>	2	<b>年</b>	年
<b>目 標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術を習得する。</li> <li>・ソフトウェアを利用したビジネス情報システムの開発について理解し、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなどエンドユーザコンピューティングを積極的に推進する創造的な能力と態度を養う。</li> </ul>								
<b>使用教材</b>	【教科書】ソフトウェア活用 新訂版(実教出版)								
<b>評価の観点・評価規準</b>	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度						
	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。						
<b>評価方法</b>	目標を踏まえ、ビジネス情報に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。								
<b>学 期</b>	<b>学 習 内 容</b>				<b>学 習 の ね ら い</b>				
1 学期	1 企業活動とソフトウェア活用 2 情報通信のネットワークの活用				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおける情報化の推進に関する基本的な知識を習得し、この科目を学ぶ目的やねらいを理解する。</li> <li>・表計算ソフトウェアを用いてさまざまなビジネス情報を分析し活用するための知識、技術を身につける。</li> </ul>				
2 学期	3 表計算ソフトウェアの活用 4 データベースソフトウェアの活用				<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトウェアのマクロ機能を用いて、日常の業務を自動化するための知識、技術を習得する。</li> <li>・リレーショナル型データベースを作成し活用するための、知識、技術を習得する。</li> </ul>				
3 学期	5 情報システムの開発				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス情報システム開発に関する基本的な知識と技術を習得する。</li> </ul>				
<b>学習上の留意点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会を生きぬくうえで必要不可欠な情報モラルをしっかり身に付けましょう。</li> <li>・マナーを守ってパソコンの実習を行い、期限内に提出課題を完成させましょう。</li> </ul>								



# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

<b>教科・科目</b>	農業・園芸福祉(学) ヒューマンサービス科 生活福祉コース	<b>単位数</b> 2 単位	<b>履修年次</b> 3 年
<b>目 標</b>	園芸福祉に関する基本的な知識と技術を習得して、福祉分野での活用力と態度を培う。また、園芸作物の特性と管理の方法を学んで、教育・医療・福祉などの他分野との関わりを理解する。		
<b>使用教材</b>	【副教材】授業の際に参考図書等を紹介しします。		
<b>評価の観点・評価規準</b>	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	身体的効果・精神的効果・社会的効果を理解して、福祉分野での利用方法の知識を身につけ、私たちの生活の場との関わりを理解している。	園芸植物の特性を認識し、場面・用途における利用植物や用具を判断する能力を身につけている。 フラワーアレンジメントなどのデザインまたは創作する技能を身につけている。 園芸作業の基本技術が身に付いている。	植物の新たな利用に関心を持ち、園芸福祉の知識や技術を取り入れようとする意欲を持ち、授業中の課題や作業に積極的に取り組む態度を身につけている。
<b>評価方法</b>	目標を踏まえ、園芸福祉に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「表現・能力」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物や課題の取り組み状況、定期考査、作業の取り組み等を総合的に判断して評価します。また、学習活動への自己評価も考慮します。		
<b>学 期</b>	<b>学 習 内 容</b>	<b>学 習 の ね ら い</b>	
1 学期	園芸療法と世界の現状  園芸福祉をはじめるにあたって  夏野菜栽培	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸療法と園芸福祉について学び、対象者の違いと活動内容を理解する。</li> <li>・実際に活動するにあたっての心構えを理解する。</li> <li>・野菜栽培の技術を身につける。</li> </ul>	
2 学期	地域性を活かした園芸福祉のあり方  すぐに取り組める園芸福祉のいろいろ  秋まき1年草の栽培	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民とともに、誰もが関わることができる園芸を活用した地域づくり方法を学ぶ。</li> <li>・園芸作物の多面的利用術を学び、地域に根ざした活用場面を探る。また場面を想定して活用方法を探る。</li> <li>・草花栽培の技術を身につける。</li> </ul>	
3 学期	園芸福祉の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草花栽培の経験を活かし、園芸福祉のプログラムを立案し、実践してみる。</li> </ul>	
<b>学習上の留意点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の一員として、一般社会に出てからの生活スタイルに生かせるよう、相互に積極的なコミュニケーションをはかること。</li> <li>・意欲を持って授業に取り組んでいるか、授業内容を理解し、適切に行動できるか、毎時間評価する。話をよく聞き、積極的に行動すること。</li> </ul>		